

まとめ

大友 詔雄

今日ご紹介できなかったことで、いくつかこの点は付け加えた方がいいかなとありますので、その点をまず、簡単にご紹介します。

一つはゴミ問題の話ですけれども、これは地域資源を使うという意味で非常に重要なことを含んでいますので、簡単にご説明申し上げます。

図1と図2は日本の輸出入物質収支です。これは1997年の環境白書の中に書かれている。こんな評価がでていっているわけではなく、文章で書かれているものをまとめ直したらこういうふうになったという話です。97年は古いんじゃないかというんですけども、この構造は、数値が変わっただけで今現在も全く同じです。今現在、新たにこれを整理するのはそう簡単ではありません。

かつて輸入量が、日本は資源がないという





ことで7.5億トン輸入して、輸出量1億トンです。貿易黒字がでて日本が豊かになって、我々がエラそうなことが言えるという話なんですけども、実は差し引きした国内滞留が6.5億トンあります。これは全部ゴミになったわけではありません。例えば、私たちの目の前の机とかイスなどの耐久消費材、こういうもので国内に残ります。しかし、これが30年たったらほとんどみんなゴミになるんで



図1 日本の輸出入物質収支

1995年「環境白書」平成9年版

輸入量：7.5億t/年 (23.7兆円) ==> 輸出量：1億t/年 (30.3兆円)

内訳	億 t (兆円)		内訳	億 t (兆円)
石油	2.3 (2.8)	 国内滞留 6.5億t/年 + 水分 	鉄鋼	0.23 (0.6)
石炭	1.3 (0.7)		セメント	0.14 (0.05)
鉄鉱石	1.2 (0.3)		機械類	0.12 (12.3)
石油製品	0.9 (1.5)		自動車	0.04 (3.9)
木材	0.4 (1.4)		電気製品	0.22 (5.4)
穀物	0.3 (0.5)		他	0.43 (7.0)
他	1.2 (15.7)			

総排出量：8億7,000万 t
 不用排出物 8億 t
 散布・揮発 7,000万 t

な肥料になります。コストが安くなれば非常にいいんですけど、ちょっと高いんですね。だからどういう用途になるかという、家庭用の菜園、花だとかをつくる時に鉢に入れてもらうとか、そういう肥料としては非常に有効です。そうすると小袋単位で付加価値がついてまいります。それから豆がら、稲わら、トマトの木、なんでもかんでもペレットにしてしまう、こういう世界です。こちらは十分燃料になります。北海道の中でいくつかこれを実際に燃料として使い始めています。

もう一つご紹介したいのは、ありとあらゆるものをペレットにしているんですね。この中には、例えば衣服だとかじゅうたんだとか、破碎されたプラスチックなど、全部ペレットにしている。何でこんなことをしているかといいますと、実はこれをやっているところはドイツのルール地方にある巨大な処分場です。これは全体100ヘクタールぐらいあって、高さ110mぐらいの山になっています。この周辺にリサイクル産業関係が集まって、今は

70社ぐらい集まっているのですが、その70社が全部ではありませんがペレットをつくる小型機械を設けて、衣服などを全部ペレットにして、素材としてもう一回使うという発想です。それを実際に素材に使うところが近くにあれば問題ないのですが、遠方にそういう工場がある場合、そこまで運ばないといけない。そうすると運送コストがものすごくかかる。ところがペレットに固めてあると、運送コストが3分の1から5分の1ぐらいに減ります。ということで、経済的な採算性ができるということで今、こういうことが行われています。ですから処分場というのはよく宝の山だと言われていますが、まさに今現在宝の山としてもう一回蘇ってきているという、こういう話です。

このことだけつけ加えさせていただきました。いろいろな話を一度に申し上げたので、頭がパンクしそうかもしれませんが、これで私の話を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。



日本共産党埼玉県議会議員団公開研修会記録集

原子力技術の根本問題と 自然エネルギーの可能性

2013年1月

発行：日本共産党埼玉県議会議員団

〒330-9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1 埼玉県庁内

T E L 0 4 8 (8 2 4) 3 4 1 3

F A X 0 4 8 (8 2 5) 1 0 4 8

<http://jcp-saitama-pref.jp>

Mail : jcp-sai@apricot.ocn.ne.jp

